

YouTube 配信



FM TANABE 放送のラジオでおなじみ、  
住まいの耐久性なんでも相談室の YouTube バージョン！

# 住まいの耐久性なんでも相談室

これから家を建てる方はもちろん、  
工務店、ハウスメーカーなど住宅を施工される方も必見。  
耐久性のプロ 神戸さんと耐久性の素人 ゆきこちゃんでお送りします。

**FM TANABE**  
88.5MHz × **hauseco**

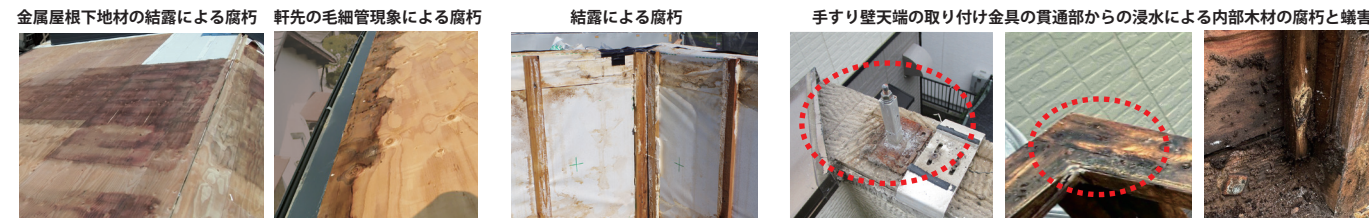


耐久性の資格試験

## 今、求められています！住宅外皮マイスター

自然災害の激甚化、住宅の高気密高断熱化…そんな時代にこそ活躍が期待される

一社 住まいの屋根換気壁通気研究会が認定する耐久性の最上位資格です。



2026年10月21日(水)

### 第六回資格試験のお知らせ

|                        |                             |
|------------------------|-----------------------------|
| 2026年 6月1日(月)～8月31日(月) | 申し込み受付および受験資格審査             |
| 9月11日(金)～9月28日(月)      | WEB講習会の配信期間                 |
| 10月21日(水)              | 東京・大阪・福岡会場にて本試験(四肢択一および記述式) |
| 12月18日(金)              | 試験結果の公表(予定)                 |

|            |  |
|------------|--|
| 資格試験       | 四肢択一式および記述式(製図課題を含む)試験   |
| 出題の範囲となる資料 | 「住まいの耐久性 大百科事典 I(改訂増補版)」 「住まいの耐久性 大百科事典 II」<br>四肢択一式                                   |
| 試験内容       | <b>住宅外皮マイスター</b> /上記資料の持ち込み可、<br><b>住宅外皮グランドマイスター</b> /上記資料の持ち込み不可<br>記述式(上記資料の持ち込み不可) |
| 講習料および受験料  | 講習料 10,000円 受験料 10,000円 合計 20,000円<br>※納付は一括とする。<br>原則として講習を受けていない者は受験資格がないものとする。      |

「住まいの耐久性大百科事典 I(改訂増補版)、II」



編集：一般社団法人 住まいの屋根換気壁通気研究会

NEWS

2026年より上位資格「住宅外皮グランドマイスター」が導入されます。

詳しくは **HP** で  
[sumaikanki.jp](http://sumaikanki.jp)

一般社団法人 住まいの屋根換気壁通気研究会 平(たいら)まで [info@sumaikanki.jp](mailto:info@sumaikanki.jp)  
〒542-0081 大阪市中央区南船場2-10-28 Tria 心斎橋 6F (旧NKビル) TEL.06-4963-8266 FAX.06-4963-8267



株式会社ハウゼコ

本社 〒542-0081 大阪市中央区南船場2-10-28 Tria 心斎橋 6F (旧NKビル)  
TEL.06-4963-8266 FAX.06-4963-8267

東京支店 〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町2-1-11 ビルックス茅場町 2F  
TEL.03-5641-5550 FAX.03-5641-5551

加西工場 〒679-0104 兵庫県加西市常吉町東畑 922-188(加西東産業団地 21号地)  
TEL.0790-47-8850 FAX.0790-47-8851

# DAR NEWS Vol.4

特集：岐阜県関市 N style ホーム

ZEH・高気密高断熱 & 安全持続性能に優れた住まいづくり

代表取締役 西村 弥(わたる)様

▼岐阜県関市平貝戸 通気立平デネブエアルーフご採用の施工現場



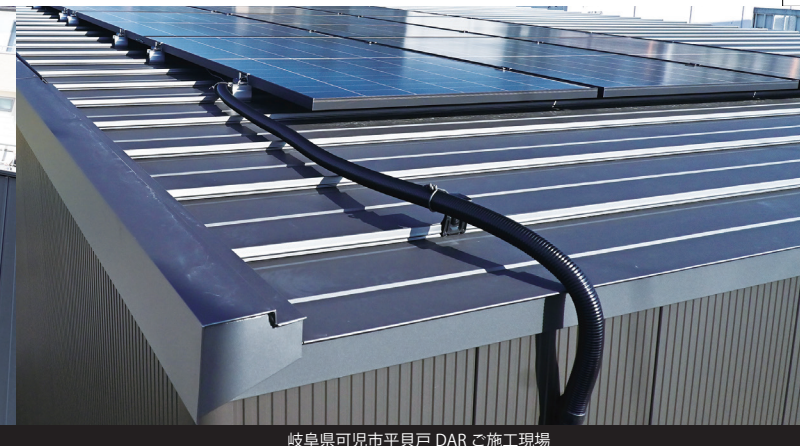
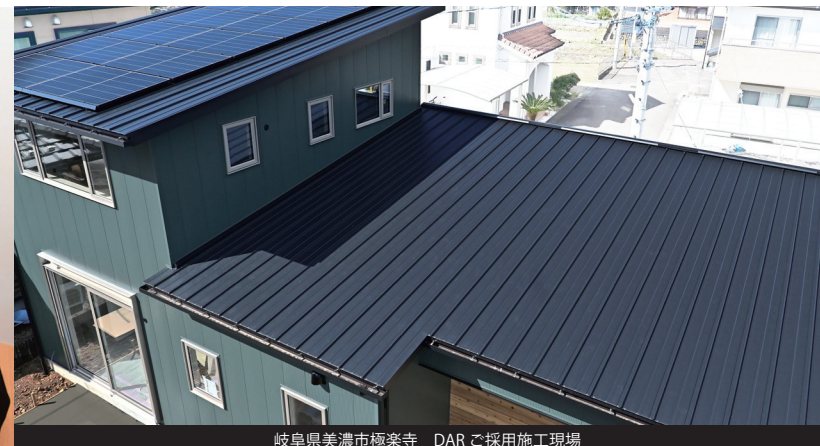
▼美濃市極楽寺 通気立平デネブエアルーフご採用の施工現場



DAR 通気立平デネブエアルーフ

# ZEH・高気密高断熱と安全持続性能に優れた住まいづくり

株式会社 N style ホーム  
〒501-3803 岐阜県関市西本郷通 6-5-5  
TEL : 0575-29-3081 FAX : 0575-29-3082



岐阜県美濃市極楽寺 DAR ご採用施工現場

岐阜県可児市平貝戸 DAR ご施工現場

## 2026年3月10日、N style ホーム 西村弥（わたる）社長、安江板金 安江厚社長にお伺いしました。

話し手  
安江板金  
代表取締役  
安江 厚様

話し手  
N style ホーム  
代表取締役  
西村 弥（わたる）様

聞き手  
株式会社ハウゼコ  
代表取締役社長  
神戸 睦史

### 安江板金 安江社長からの提案で始まった DAR

神戸：今日は岐阜県で通気立平デネブエアールーフ（以下 DAR）を採用いただいている N style ホーム 西村社長と、板金工事を引き受けておられる安江板金 安江社長からお話をお伺いいたします。お二人とも、お忙しい中、ありがとうございます。早速ですが西村社長、DAR の導入はどのような経緯だったのでしょうか？



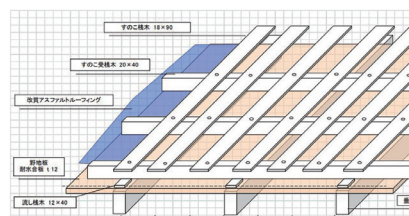
神戸



西村社長

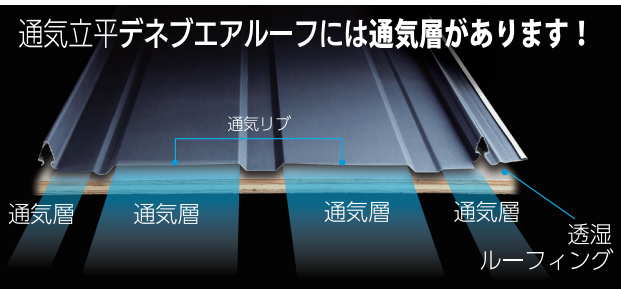
西村社長：今、私たちがお話をしているこの家ですが（注：数年前に建築された N style ホームさんのモデルルームで対談しています）安江社長に屋根の板金工事をお願いしていました。この家は野地合板の上に透湿ルーフィングをシワを寄せて密着させないように貼って、その上に縦棧、もう一段上に横棧を打つ「通気下地屋根構造」で施工しています。

通気下地屋根構造



安江社長

屋根の通気にこだわってこの構造を採用していたのですが、安江社長から「作業効率が悪い」ということで、「ではこれはどうですか？」と提案してもらったのが、ハウゼコさんのデネブエアールーフです。



神戸：では板金屋さんの安江社長からの情報でスタートですか？実はこの DAR を最初に製品化したときのことなんですけれど、

工務店さんから「これはいい！」と言ってもらえても、板金屋さんや屋根屋さんから「手が掛かりそうだから」とダメ出しされることが多かったんです。ですので板金屋さんが新しいものを勧めていらっしゃるというのは、きっととてもいい関係で仕事をしているからなんですわね！

西村社長：住まう方にとって良い住宅を提供するんだ、ということ板金業者さん、電気屋さん、基礎屋さんなど皆さんが理解してくれているからこういう動きが生まれるのだと思います。工務店とプロフェッショナルの職人さんたちとの間で良い関係が築けているのだと思っています。それに工務店側から「このやり方でやってみてくれないか？」と持ちかけると迷惑がられたりしがちですからね。（笑）

安江社長：住宅がこれだけ高性能化してくると、私たち職人も正確な情報を知り、考え方も刷新していかなければならないと思います。正直言います、野地合板の上に改質アスファルトルーフィングを敷き込み、立平を葺き、上・下（かみしも）を掴んで、と言う従来からのやり方なら慣れもあってイメージしやすく、何も考えなくても作業ができます。しかし通気のことや耐久性のことを考えた時には、知識もやり方も変えていかないとはいけません。私も業者仲間と話したりするのですが、第一声で「よくそんな面倒なことしているな」と言われます。でも私はよく考えて理解した上で施工しないといけない時代だと認識しています。考えて理解しない施工ということで、普通の立平の下葺材に透湿ルーフィングを使っているという話も聞きます。理由は「軽いから」というもので他に理由はなさそうなんですわね…。

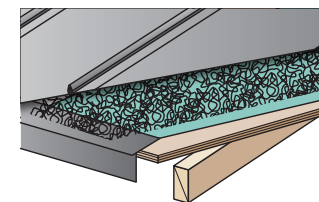
神戸社長：その話、時折聞きますね。透湿ルーフィングは屋根材との間に通気層があることが前提です。ゴムアスファルトルーフィングは透湿ルーフィングより防水性や釘穴からの止水性に優れていますが、もし野地合板などに施工中の雨がかりがあって初期含水がある場合は通気層もなく透湿性もないので乾燥できずに腐朽の原因になってしまいます。二重野地というやり方もありますが、工程に時間がかかる分、雨がかりのリスクも増えます。



透湿ルーフィングは透湿効果で水分を通気層へ排出できますので DAR とのセットで非常にうまく機能するんです。

西村社長：屋根の通気については重要なことだと認識してこれまでもいろいろ検討しました。たとえば、「網状体を使用した通気構法」を検討したこともあります。立平と野地合板の間に網状のものを敷き込むのですが手間とコストがかかるので断念しました。

網状体（立体網状構造体）

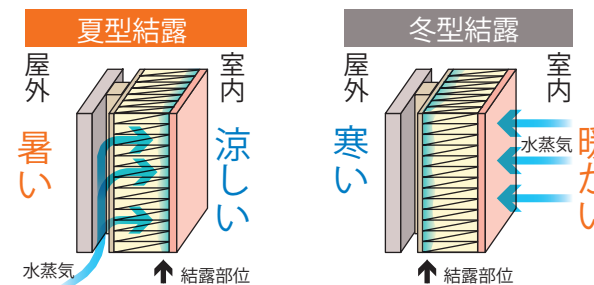


神戸：それもよく聞きます。DAR と透湿ルーフィングだけの部材構成だと通常の立平と変わらずシンプルで、余分なコストアップも特別な手間もありません。

安江社長：現在の家は軒ゼロ・キューブ型デザインが多いと思いますが、やはりこれも関係していますよね？

神戸：そうですね、おっしゃるように最近では箱型で片流れの屋根が多いですが、これの問題が多いんですよ！陸屋根のような緩勾配の屋根で、加えて軒が短かく開口部の雨がかりが多い、そんなことが事故の原因となっていると思われます。事故は部位別で開口部が 37%、バルコニーと陸屋根で 19%、屋根と壁で 11%、そして保険事故の発生割合は実に 95% が雨漏りによるものです。

西村社長：それと最近では雨漏りだけではなく、結露のことも考えなくてはなりませんよね。岐阜も夏がとても暑くなりましたので、冬型だけでなく夏型結露に対して検討しなければなりません。



WUFI で非常計算による防露措置を検討したり、室内側の防湿フィルムに調湿シートを使ったり、と積極的に対応しています。

安江社長：職人側も、もっと理解力を深めていかないといけないのですが、マニュアルや施工図をあまり見ない人が多くて困ります。

### 雨漏りは減少傾向、増えているのは結露事故

神戸：実を言うと、最近では雨漏りは減少傾向ですが、結露の事故は反対に増えています。それで結露は複雑なメカニズムで起こることが多いので、プロデュースする工務店サイド、設計サイド、施工する職人サイドのみならず、理解を深めることが大事ですわね。ひとつ、これは大阪の「縁 創建工房」という工務店様で起こった事故例を説明させていただきます。雨漏りだと思ったら結露が原因の事故



であったという例です。この工務店様は軒出が 900mm、檜の胴縁、垂木もスリットを入れて通気を確保したりと非常にこだわった家づくりをされています。それにもかかわらず、結露を原因とする透湿ルーフィングの変色が見られ、その下にある野地合板は腐朽が見られました。通気の出口にあたる換気棟があるところは問題が見られず、換気棟がない区画で結露していたのです。また軒先には毛細管現象による雨水の吸上げが起こっていて、野地合板にはその跡が残っていました。



透湿ルーフィングの変色 野地合板の腐朽 雨水による軒先の変色

安江社長：そうですね、軒先からの水の吸い上げですが、瓦棒を使った屋根では大抵、軒先をがっちり掴んでしまうので毛細管現象による吸い上げの事例はよく見られます。

神戸：そうですね、軒先の掴み加減のことは職人さんのセンスが大事ですね。

そして、これまでは室内側の結露が多く論じられてきましたが、これからは屋根をはじめとした外皮部分の結露が問題になります。住宅の耐久性を向上させるためには取り組まなければならない問題だと思います。

私は、理事の方々と「一般社団法人 住まいの屋根換気壁通気研究会」を立ち上げ、学識経験者や実務者の方々との耐久性の向上についての研究を行うとともに、「住宅外皮マイスター」という資格制度も作りました。6 年前には日本で初めての耐久性の教科書「住まいの耐久性大百科事典」も発刊しました。

西村社長も安江社長も、住まう方が安心して永く住める住宅作りのために、一緒に勉強していただければ嬉しいです。

本日は貴重なお話をお聞きできました、ありがとうございます。

